

令和 8 年第 3 回 高千穂町議会定例会

一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【 7 名 14 件 】

質問日	件数	質問者	件名	頁
9 月 15 日 (火) 10 : 00 ~	2 件	市野 辰廣 議員	1. 若年世帯の町外転出と子育て支援制度の地域間格差について 2. 地域ボランティアについて	1
	1 件	佐藤 孝子 議員	1. 高千穂の伝統食の継承と地域活性化について	3
	2 件	板倉 哲男 議員	1. 高千穂高校全国枠募集の受け入れ体制について 2. 高千穂中学校移転新築について	4
	2 件	田中 義了 議員	1. 高千穂中学校新築工事に係る諸問題について 2. 高千穂橋梁の国の登録有形文化財に係る諸問題について	9
	2 件	佐藤 春男 議員	1. 縮小が予想される第一次産業、農畜産物の販売額について 2. 災害に対する「自助」「共助」「公助」の考え方について	11
9 月 16 日 (水) 13 : 30 ~	2 件	磯貝 助夫 議員	1. 駅通り線の環境整備の推進状況について 2. 第 13 回全国和牛能力共進会北海道大会への対応について	12
	3 件	佐藤さつき 議員	1. 鳥獣害対策について 2. 武道館の施設改修工事による代替施設及び、その他の施設の環境整備について 3. 人口減少対策について	13

順	質 問 者	件 名	質問相手
1	市野 辰廣 議員	1. 若年世帯の町外転出と子育て支援制度の地域間格差について	町長
質 問 の 要 旨			
近年、高千穂町では人口減少対策として移住促進や子育て支援の充実を進めている一方で、地元出身の若年夫婦が隣町へ転出し、勤務先は高千穂町内のままという事例が増加しているとの指摘があります。 転出理由としては、隣町における保育園・幼稚園の完全無償化や、生活費の総額が抑えられることによる家計改善などが挙げられます。高千穂町の子どもの数に応じた助成金制度よりも、毎月の固定費が確実に軽減される無償化の方が、若年世帯にとって魅力的であると考えられます。 その結果、移住促進を進める一方で、地元の若年世帯が町外へ流出するという構造的な矛盾が生じています。人口維持の観点から見ても大きな課題であると思います。 そこで町長に伺います。 ① 若年世帯の町外転出の実態をどの程度把握されているのか。 ② 子育て支援制度の地域間格差に対して、町としてどのような対策を検討されているのか。 ③ 移住促進と地元若者の定住をどのように両立させるのか。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
1	市野 辰廣 議員	2. 地域ボランティアについて	町長
質 問 の 要 旨			
近年、全国で豪雨・地震・土砂災害・大火災等が頻発し、自治体の災害対応が厳しく問われています。高千穂町も例外ではなく、町として災害対応力を抜本的に強化する必要があります。 その中で、災害時のボランティア受け入れ体制は、町民の生命・生活を守るための要です。しかし現状では、受け入れの流れや事前登録制度、研修体制などについて、町民から具体性が不足しているとの声が聞かれます。 さらに、災害対応は行政だけでは限界があり、地域の団体・企業・行政が一体となる体制づくりは、今や不可欠な取り組みです。平時から連携し、災害時には即応できる体制を構築しなければ、町民の安全を守り切ることはできません。 そこで町長に伺います。 ① 現行のボランティア受け入れ体制をどのように評価し、どの部分に課題があると認識されているのか。現状のままで十分と考えておられるのか、それとも改善が必要と考えているのか。 ② 町民ボランティアの事前登録制度や平時の研修・訓練について、町として制度化に踏み出す考えはあるのか。災害時の即応性を高めるため、具体的に導入する意思があるのか伺いたい。 ③ 地域の団体・企業・行政が連携する体制づくりを、町としてどのように進めるのか。地区支援チームの創設、企業との協定、NP0・消防団・自治会との連携強化、デジタルによる情報共有など、町としてどの施策を具体的に導入するのか、町長の明確な方針を伺いたい。 以上、災害から町民を守るために、町長としてどの具体策を実行に移されるのか、明確な答弁を求めます。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
2	佐藤 孝子 議員	1. 高千穂の伝統食の継承と地域活性化について	町長 ・ 教育長
質 問 の 要 旨			
高千穂には長い歴史の中で地域の暮らしや農業を深く結びつきながら受け継がれてきた、さまざまな伝統食や郷土料理があります。しかし、生活様式の変化や食生活の多様化などにより、家庭で郷土料理を作る機会が少なくなり、昔から伝わる食文化を次世代へ伝えていくことが難しくなっているのではないかと感じています。 伝統食は、歴史や農業、地域で受け継がれてきた知恵、そして人と人の繋がりを伝える大切な食文化です。 これらを踏まえて、次の４点について伺います。 １、伝統食の現状と継承についてどのように認識しているか。 ２、学校給食や食育、地域の方々との交流などを通して、次世代に郷土料理を伝えていく取り組みを充実させていく考えはないでしょうか。 ３、本町を訪れる観光客に、高千穂ならではの食を味わってもらうことは、高千穂の魅力を知っていただく良い機会になると思います。飲食店、農家、地域団体などと連携し、対外的に PR していく考えはないでしょうか。 ４、地域の高齢者が持っている昔ながらの料理の作り方や由来、食材について聞き取り調査を行い、レシピや映像、冊子などの形で、伝統食を後世に残すための記録、保存をしていく考えはないでしょうか。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
3	板倉 哲男 議員	1. 高千穂高校全国枠募集の受け入れ体制について	町長
質 問 の 要 旨			
高千穂高校では昨年度から全国枠で生徒の募集をしており、昨年度は 10 人、今年度は 7 人の生徒が県外から入学したそうです。 全国枠で生徒の募集をしている高校は増加しており、2023 年には 111 校だったのが、現在は 175 校になっています。 全国枠募集を実施する高校が増加する中、全国の中学生や保護者から選ばれるためには、高千穂高校ならではの教育内容だけでなく、安心して 3 年間を過ごすことができる生活環境の整備が重要です。 そのために、本町がすべきことは、行政および地域をあげた受け入れ体制の充実と考えます。 そこで、受け入れ体制の充実について、考えていきたいと思います。 （１）下宿生への経済的支援について 現在、高千穂高校では、全国枠の生徒の住環境として高校の寮と下宿で受け入れています。同じ全国枠の生徒であっても、高校の寮と下宿で経済的負担が異なります。 寮は月に 3 万 5000 円、下宿は月に 7 万円の負担です。 下宿生については、町から月に 1 万円、同窓会から月に 1 万円の補助があり、実質、月に 5 万円の負担です。 しかし、それでも 3 万 5000 円と 5 万円ですので、月に 1 万 5000 円の差があります。 3 年間になると、かなりの差額になることは、言うまでもありません。 高校の寮と下宿でさまざまに違いがあることは仕方がありませんが、全国から多くの高校生を呼び込むという観点からすれば、高校の寮と下宿の経済的負担の差が過度にならないよう配慮する必要があると思います。 高校の寮と下宿で同様の経済的負担となるよう、現状以上の、経済的支援が必要ではないでしょうか。 （２）経済的支援の時期について 下宿生に対する町からの月に 1 万円、同窓会から月に 1 万円の補助ですが、支給のタイミングは 10 月と 4 月に半年分ずつ後払いで行われているようです。 つまり、下宿生の保護者にとっては、補助があるとはいえ、毎月 7 万円を一旦は全額負担する必要があります、家計への負担は決して小さくありません。 下宿生の保護者に対する経済的負担感の軽減のため、支給のタイミングを、半年分の前払いの支給にする、あるいは、毎月の支給にしては、いかがでしょうか。 （３）下宿生の食事の支援について 高校の寮と下宿では、食事の対応についても、違いがあります。 高校の寮の場合、平日も休日も、3 食の食事が提供されるそうです。			
〈次頁に続く〉			

しかし、下宿の場合、平日の朝夕は提供されますが、平日の昼食および、休日は各自で用意することが原則となっているようです。

つまり、寮の 3 万 5000 円と下宿の 7 万円の金額以上に、下宿生の保護者の負担は大きいということです。

下宿生の平日の昼食および休日の食事について、別途、支援が必要ではないでしょうか。

（４）町内飲食店や小売店との連携について

本町は、中山間地であるものの、県内一の観光地です。

そのため、町内には、他の中山間地よりも飲食店や小売店の数は多いと考えられます。

先の（３）とも関連しますが、町内の飲食店や小売店と連携し、下宿生に平日の昼食や休日の食事を提供する体制をつくってはいかがでしょうか。

例えば、町内の飲食店や小売店の多くは商工会に加盟していますので、食事の支援として、商工会商品券を下宿生に配布するという方法もよいと思います。

（５）シェアハウス型の住環境について

先に述べたとおり、現在、全国卒の生徒の住環境として、高校の寮と下宿で受け入れていますが、寮には定員の上限があり、また、下宿についても、受け入れに手を挙げてくれる町民の方が少ないのが実情です。

全国卒の生徒を今以上に受け入れるには、新たな受け入れ先を確保する必要があります。

下宿の受け入れについては、空いている部屋を貸すことは問題ないものの、毎日の食事を提供することが負担と感ずることが多いようです。

そこで、住環境と食事の提供を分ける、シェアハウス型の住環境を整備してはどうかと思います。

民間の貸家やアパート、ゲストハウスなどを町で借り、そこを複数人の学生の住環境とし、食事については、（３）、（４）とも関連しますが、町内の飲食店や小売店などと連携し、食事を提供する体制を整備してはいかがでしょうか。

（６）寮の整備について

全国卒の生徒の住環境として、最終的には、高校の寮と下宿の違いをなくすためにも、町として寮を整備することが必要だと思います。

県内ではえびの市の飯野高校が全国卒を受け入れており、当初は下宿での対応だったそうですが、現在は、男女それぞれの寮を整備し、受け入れているようです。

前回の議会では、県に対して新たに寮を増設してほしいという要望をしていくということでしたが、えびの市が自力で寮を整備したことを考えると、県が寮を増設する可能性は低いのではないかと思います。

そのため、最終的には、町として寮の整備が必要ではないかと思っています。

（７）帰省費用の助成について

全国卒の生徒は県外から来ており、九州外から来ている生徒も多くいるようです。

当然、正月などには帰省しますが、帰省費用については、保護者の負担となります。

〈次頁に続く〉

全国卒の受け入れをしている自治体によっては、帰省費用の助成をしているところもあるようです。

本町においても、帰省費用の助成に取り組んではいかがでしょうか。

（８）高校魅力化推進事業の財源について

高校魅力化推進事業には、寮の整備をはじめ、今後さらなる財源が必要になると考えられます。

これらの財源確保の一環として、ガバメントクラウドファンディングや、企業版ふるさと納税を活用してはいかがでしょうか。

以上を踏まえ、町長に伺います。

①高校の寮と下宿で同等の経済的負担となるよう、下宿生に対する現状以上の経済的支援が必要ではないでしょうか。

②下宿生の保護者に対する経済的負担感の軽減のため、支給のタイミングを、半年分の前払いの支給にする、あるいは、毎月の支給にしてはいかがでしょうか。

③下宿生の平日の昼食および休日の食事について、支援が必要ではないでしょうか。

④先の③とも関連しますが、町内の飲食店と連携し、下宿生に昼食や休日の食事を提供する体制をつくってはいかがでしょうか。

⑤全国卒の生徒の新たな住環境として、シェアハウス型の住環境を整備し、食事については、③、④とも関連しますが、町内の飲食店や小売店などと連携し、食事を提供する体制を整備してはいかがでしょうか。

⑥全国卒の生徒の住環境として、最終的には、町として寮を整備する必要があると思います。中古物件のリフォームなどによる寮の整備を検討中とのことですが、現在の検討状況を伺います。

⑦全国卒の生徒の帰省費用について、助成をしてはいかがでしょうか。

⑧高校魅力化推進事業の財源確保の一環として、ガバメントクラウドファンディングや、企業版ふるさと納税を活用してはいかがでしょうか。

順	質 問 者	件 名	質問相手
3	板倉 哲男 議員	2. 高千穂中学校移転新築について	町長 ・ 教育長
質 問 の 要 旨			
前回定例会の初日における行政報告にて、高千穂中学校の移転新築候補地は、高千穂小学校隣接地を最適地として決定したと、発表がありました。 中学校の移転新築については、移転新築検討委員会において、一旦は、高千穂温泉跡地が最適と判断されましたが、その後の再調査・再検討の結果、高千穂小学校隣接地が選定されたという経緯があります。 移転新築候補地が、なぜ高千穂温泉跡地から高千穂小学校隣接地へ変更となったのか、疑問を抱く町民の方は一定数おられると感じます。議会報告会においても、同様の疑問の声がありました。 また、概算の事業費について、昨年に実施された中間報告会の時の試算よりも大幅に増額しており、町の財政について不安を抱く声もあります。 高千穂中学校の移転新築は、町にとって重大事業であり、多くの町民の理解を得て進めることが望ましいと考えます。 より多くの町民の理解を得るためにも、次のような取り組みや検討が必要ではないかと考えます。 （１）最終報告会の開催 中学校の移転新築については、令和 7 年 3 月下旬から 4 月上旬に、中間報告会として、住民向けに説明がありました。また、小中学生の保護者向けに、同様の内容の中間報告会が、令和 7 年 9 月に行われました。 中間報告会の段階では、高千穂温泉跡地が移転新築候補地として最適としていました。しかし、最終的に、移転新築候補地について、高千穂小学校隣接地を最適地として決定しました。 移転新築候補地が変更となったことについての説明会は、住民向けにも保護者向けにも行われておりません。 中間報告会を実施したわけですので、最終的な結論を出したなら、最終報告会を開催し、移転新築候補地を、なぜ高千穂温泉跡地から高千穂小学校隣接地に変更したのかの説明をする必要があるのではないのでしょうか。 （２）高千穂小学校との体育館、グラウンドの共用 高千穂小学校隣接地に中学校を移転新築した際の概算事業費として、約 31 億円が見込まれるとしています。 この内訳を見ると、一部の特別教室については、高千穂小学校と共用するものの、体育館、グラウンドについては、中学校専用の施設を整備する試算となっています。 しかし、今後の児童生徒数の減少を考えると、体育館やグラウンドについては、高千穂小学校との共用や、運動公園・武道館など、町内の社会体育施設の活用などを考える必要があるのではないのでしょうか。 〈次頁に続く〉			

その理由として、本年 4 月に議会の文教厚生常任委員会で視察した、神奈川県のはるひ野小中学校の事例を紹介します。

はるひ野小中学校は、令和 7 年 5 月現在で、小学校が通常学級が 21、特別支援学級が 3、児童数 675 人。中学校は通常学級が 12、特別支援学級が 4 で生徒数 383 人。合計で通常学級 33、特別支援学級 7 で児童生徒数 1,058 人です。

なお、はるひ野小中学校は現在、児童生徒数が減少しており、以前はもっと児童生徒数が多い時期もありました。

最も児童生徒数が多かったのが平成 29 年度で、小学校が通常学級が 31、特別支援学級が 5、児童数 1,112 人。中学校は通常学級が 12、特別支援学級が 4 で生徒数 407 人。合計で通常学級 43、特別支援学級 9 で、児童生徒数 1,519 人です。

こうした学級数、児童生徒数に対し、グラウンドは 11,966 m²（開校時は 7,465 m²）。体育館は 2 つあり、1,279 m²と 1,198 m²です。

一方、令和 8 年 4 月現在の高千穂小学校は通常学級 11、特別支援学級 2 で児童数は 255 人。高千穂中学校は通常学級 7、特別支援学級 2、生徒数は 234 人、合計すると、通常学級 18、特別支援学級 4 で児童生徒数は 489 人です。

つまり、高千穂小学校と高千穂中学校は、はるひ野小中学校の半分程度の規模です。

それにもかかわらず、現在の高千穂小学校のグラウンド、体育館に加え、概算事業費算出の資料のとおり、高千穂中学校のグラウンド、体育館を整備するとなると、児童生徒数や学級数がはるひ野小中学校の半分程度であるにもかかわらず、学校施設の規模としては、はるひ野小中学校と同程度の規模の体育館・グラウンドを保有することになります。

今後の児童生徒数の減少を考えると、新たに整備する高千穂中学校については、中学校専用のグラウンドや体育館を整備するのではなく、小学校との共用を基本とし、必要に応じて町内の社会体育施設を活用してはいかがでしょうか。

以上を踏まえ、町長および教育長に伺います。

①高千穂中学校移転新築について、最終の報告会を開催し、移転新築候補地を、なぜ高千穂温泉跡地から高千穂小学校隣接地に変更したのかの説明をする必要があるのではないのでしょうか。

②今後の児童生徒数の減少を考えると、高千穂中学校については、グラウンドや体育館を整備せず、小学校とグラウンド・体育館の共用や、町内の社会体育施設を活用してはいかがでしょうか。

順	質 問 者	件 名	質問相手
4	田中 義了 議員	1. 高千穂中学校新築工事に係る諸問題について	町長 ・ 教育長
質 問 の 要 旨			
① 造成予定地は活断層のゾーンにあることから地震災害のおそれはないか。 ② 造成予定地の土地・立木・墓地の地権者との契約締結に係る期間は。 ③ 造成予定地などの文化財に係る調査期間は検討委員会では 5 年間で、今回は 1 年間とのことだが、どのような理由で 4 年間短縮できたのか。 ④ 造成予定地内にある墓一箇所が補償物件とあるが、その辺りは町有地の墓地だが、町有地は造成予定地にいかほど割譲されるのか。また、墓地の上に中学校校地があることの懸念はないのか。 ⑤ 検討資料によると高校併設（仮）には高校敷地買収とあるが、借地料の考えはないのか。そうすれば、用地調査費 14,067 千円も減額ができる。また、隣接地の造成予定地の用地調査費は急傾斜地警戒区域にあるのにあまりにも過小評価だ。 ⑥ 4 団体から高校併設の理由の一つに、技術者の立場から造成予定地の法面整形工事が困難との見方を示されたが、どのように町当局は対処したのか。 ⑦ 隣接地の丘陵地帯の土砂を現地で埋め立てた場合、地盤の落ち着くまでの期間をどのように考えているのか。 ⑧ 高千穂中学校移転先の選定にアンケート調査から次のような疑問点がある。 （１） 移転先の調査なのにどうして小中学校の小中一貫教育をメインにしたのか。 （２） 小中一貫校構想の内容も町民に周知せず、今後の統廃合をどのように計画しているのか。 （３） 小中一貫校の話が 10 年前から教育委員会は認識したかのようだが、高千穂議会は、平成 17 年に特別委員会の委員長報告、平成 22 年には神奈川県横浜市の併設型小中一貫校の視察研修の委員長報告がなされ、検討するよう提言しているのに、町はどのように検討しているのか。 （４） アンケート調査の 3,191 名の中から、教育長は高校併設の反対意見の代表的な内容として「学習を阻害する」を紹介したが、どのように考えられたのか。			
〈次頁に続く〉			

⑨ 高千穂小学校正門前石段建設の進捗状況は。 ⑩ 高千穂中学校のプレハブ校舎建設の進捗状況は。			
順	質 問 者	件 名	質問相手
4	田中 義了 議員	2. 高千穂橋梁の国の登録有形文化財に係る諸問題について	町長
質 問 の 要 旨			
① 高千穂橋梁の登録に伴い、橋の修繕工事、ペンキ塗り替え工事等々にいくらかかるのか。また、諸工事期間中の高千穂あまてらす鉄道に対する営業補償はどうするのか。 ② 登録に係る国や県からの補助金の支援はどうなるのか。 ③ 高千穂町はこの登録に伴う関連工事として取り付け道路や駐車場の新設工事を考えているのか。駐車場の使用は有料なのか。 ④ 橋を歩行者に有料で通行させることを考えているのか。 ⑤ 鉄道公園化構想の大事業構想はその次に考えているのか。 ⑥ 近年では、大地震、酷暑、豪雨などの天災が日本各地で頻発しているが、その対策はどうするのか。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
5	佐藤 春男 議員	1. 縮小が予想される第一次産業、農畜産物の販売額について	町長
質 問 の 要 旨			
JA の資料によると、令和 3 年度の販売高は 45 億円。令和 7 年度の販売高は同じく 45 億円。これを見ると郡内の JA が取り扱う農産物の販売高は変わっていないように見えますが、米が一昨年より昨年度は 1 億 2 千万円増。畜産関係は 5 億 5 千万円増。この 1 年の米と畜産の増を除けば全体の販売高は減少していると見られます。米の販売価格は、今年度は大幅に減額すると見込まれます。 子牛の生産については過去 5 年の毎年 7 月末について調査しました（表とグラフ）。母牛頭数について、令和 4 年は 4,687 頭が令和 8 年は 3,572 頭。農家戸数は 630 戸が 422 戸。子牛生産頭数は 3,760 頭が 2,858 頭。年 6 回セリが開催されましたので、1 セリ平均 625 頭が 433 頭に減という現状です。 昨年 3 月市より相場が大きく回復しましたので、過去の例に習って、1 年から 1 年半後には徐々に母牛の頭数の回復を期待していましたが、昨年 7 月と比較しても、今年の 5 月と比較しても同じように減少しています。 今後過去 5 年と同率でそれぞれ減少して行くと、令和 9 年から令和 13 年には、お示ししている表グラフのように予想出来ます。3 年後を待たずに、年 6 回 2 日間のセリ開催は難しくなります。前にも申し上げましたが、母牛に人工授精をして、その子牛が市場に出るまでに 20 ヶ月かかりますし、その子牛を肥育して「高千穂牛」として提供するには更に 20 ヶ月かかります。産地として生き残り生産者を守るためには後がありません。 高千穂町の一次産業を守る、町長の強いお考えをお答え下さい。			
順	質 問 者	件 名	質問相手
5	佐藤 春男 議員	2. 災害に対する「自助」「共助」「公助」の考え方について	町長
質 問 の 要 旨			
7 月に発生しました、「令和 8 年熊本地震」の被災者の方々にはお悔やみとお見舞いを申し上げます。 高千穂町の過去の災害を振り返ってみますと、消防団の避難の呼びかけに対しての反応はまちまちで、個々の判断の遅れにより、被災された現実がありました。 多発的な広域大規模災害が発生した場合、「共助」「公助」「自助」があつての次の階段となります。 町民の命を守って、次の復興につなげる為に、町としての考え方、周知の仕方をお答えください。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
6	磯貝 助夫 議員	1. 駅通り線の環境整備の推進状況について	町長
質 問 の 要 旨			
令和 6 年第 1 回定例会で、「駅通りの環境整備推進は検討されているのか」と質問したが、西臼杵支庁と協議し検討していくとの答弁であった。 現在も通りの住民や、通りを利用する方々から問われることがある。 今回で、駅通りに関する質問は 3 回目である。 議員として進展状況を住民に伝える義務があり、町は質問した内容に変化が生じた際、質問した議員や、状況により全議員に報告するべきであると思う。 町長に問う。 1 駅通り線の環境整備に関する事業推進はなされているか。			
順	質 問 者	件 名	質問相手
6	磯貝 助夫 議員	2. 第 13 回全国和牛能力共進会北海道大会への対応について	町長
質 問 の 要 旨			
2027 年 8 月 26 日から 8 月 30 日の間に北海道で開催される第 13 回全国和牛能力共進会開催まで 1 年となったが、大会に向けた準備を進めていることと思う。 今、畜産農家も高齢化や後継者不足であり、いつまで家業ができるかと不安を抱えている。 後継者の育成強化を図るために畜産に興味のある若い人たちを対象に本大会への派遣や見学等の企画をしてはどうかと考える。 町長に問う。 1 本大会への準備状況は。 2 畜産に興味のある若い人たちを派遣、見学をさせる企画等できないか。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
7	佐藤さつき 議員	1. 鳥獣害対策について	町長
質 問 の 要 旨			
人口減少による耕作放棄地の増加や、近年の気候変動などにより、動物が住民の生活圏に近づき、現状の対策では被害の減少が見られません。 各地区において議会報告会を行いました。鳥獣害被害の減少は見られない、もっと対策を講じてほしいとのご意見を多く頂きました。 今までも、獣害対策について議会で質問を行い、その結果、町としても対策を行っていただいておりますが、それでは追いつかず早急な対応が求められています。 そこで次の点から伺います。 ① 狩猟をされる方は道具以外にも移動手段として車を使います。山から山への移動となると相当な燃料も必要となり、物価高騰のおり、狩猟意欲に少なからず影響が出ると考えます。 本年度から報償金が上がった動物もありますが、各地区での数字に出てこない鳥獣害被害について、町民からの現状を聞きますと、もっと対策を加速させ、報償金額をさらに上げてでも対応する必要があると考えます。狩猟する方々も減少傾向にあります。 どうにかして、人員確保も考えなければなりません。町の考えを伺います。 ② 狩猟者の確保として、狩猟者育成の補助を独自に行っている公民館もあります。町と公民館と連携して狩猟者確保の対策を講じる考えは。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
7	佐藤さつき 議員	2. 武道館の施設改修工事による代替施設及び、その他の施設の環境整備について	町長
質 問 の 要 旨			
長寿命化計画において、住民のための公共施設の整備計画がされていますが、解体も改修工事も進んでいません。 町民が使用するにあたり早急に不便を感じる施設及び観光地として観光客を迎えるにあたり改修や改善が必要ではないかと思われる施設について伺います。 ① 武道館の施設改修工事は以前から計画されていましたが、一年という長期となると代替施設が重要となります。 現状、中央体育館や弓道場を利用していますが、今年は特に異常な暑さにもかかわらず、どちらも暑さ対策がなされていません。 長期予報では今後も暑さは継続とのことです。利用者の暑さ対策として、せめて、大型扇風機や冷風扇、氷の自動販売機、できるなら弓道場の広さであれば業務用エアコンなど、暑さ対策の考えは。 ② 神楽の館の近くにある公衆トイレは、イベントなどで観光客が多く使用します。改修工事の考えは。 ③ 高千穂国保病院の駐車場は広域医療センターの管轄ではありますが、げんき荘を利用する町民も使用します。福祉カード車両のための駐車場がありますが、表示がないため障がいのある方や体調の悪い方、妊婦の方が利用できていないのが現状です。福祉的配慮の考えについて伺います。			

順	質 問 者	件 名	質問相手
7	佐藤さつき 議員	3. 人口減少対策について	町長
質 問 の 要 旨			
人口減少対策として、若い方や退職した方など、町内、町外の方が起業しやすい町の取り組みをしてはいかがでしょうか。 企業誘致となると道路などのインフラ整備が重要になりますが、個人の起業となると課題解決がしやすいと同時に、高千穂の魅力発信にもなります。 I T 関連の誘致などは現在もレンタルオフィスなどが行われていますが、次の点から伺います。 ① 観光協会が飲食と宿泊に限って起業する方に補助を行っていますが、その枠に当てはまらない職業を起業する方への町としての支援の考えは。町の特色に出来たら良いと考えます。 ② 飲食と宿泊以外に起業する方の空き家のリフォーム限度額を上げるなどの策の考えは。			